

令和6年度技術研修交流会「株式会社サンゲツの環境共生技術」報告レポート

日時：令和6年11月11日（月）15：00～17：30

場所：株式会社サンゲツ 品川ショールーム及び4階セミナールームA

講師：株式会社サンゲツ 朝比奈 啓祐氏 参加人数：現地24名（講師・スタッフ含む）

◆挨拶

株式会社サンゲツ / 富田 一哉氏

- ・株式会社サンゲツは、壁紙・床材・ファブリックを中心に展開するメーカー。
- ・ここ数年は空間提案を行うスペースクリエーション企業を目指している。
- ・環境に貢献できる製品を多数用意しているが、本日はガラスフィルムを中心に紹介する。



◆サンゲツの環境への取り組み、環境商品・技術の紹介

株式会社サンゲツ / 朝比奈 啓祐氏

「ガラスフィルムで出来る インテリア美観維持+省エネ効果」



◇ガラスフィルムについて

飛散防止を目的として誕生したが、震災等を踏まえ省エネ効果（遮熱・断熱）にも注目される様になってきた。また、近年では防犯対策としてフィルム施工を行うケースも増えてきている。

◇ガラスの性能

2022年時点での戸建て住宅やマンションにおけるガラスの設置状況は、複層ガラスやLow-eガラスが大半を占めているが、2008年に遡ると複層ガラスやLow-eガラスの設置状況が大きく落ちる。築18年以上のストック住宅はその多くがフロートガラスの可能性が高く、省エネ性能に劣る状況がある。

◇ガラスフィルムによる紫外線の制御

フィルムをガラスに貼ることにより紫外線の波長領域をコントロールし、ユーザーが求める適切な窓になることを目指す。特にフロートガラスの住宅に効果的な商品であり、窓ガラス自体を変えるより費用対効果に優れる。ホームページでガラスフィルムを設置した場合の省エネ（光熱費）シミュレーションも可能。

◆品川ショールーム見学商品紹介

- ・ガラスフィルム：紫外線や熱の伝わり方を体感できる展示空間
- ・エコニール：漁網やペットボトルをリサイクルした床材
- ・メグリウォール：珞殻を使った壁紙
- ・CO₂削減証明書発行制度：製品生産の上で従来製品と比較してどれだけCO₂を削減したか証明する。事業者がCO₂削減報告のエビデンスとしても利用可能。



◆質疑応答

- 壁紙の汚れ防止機能について実演があったが、その際に用いた液体は水？
→実演にはアルコール系の液体を使用している。壁紙の汚れ防止機能を有しているため、アルコールを用いても問題なく清掃可能。
- ガラスフィルムの耐久性、耐候性、寿命等を教えて欲しい。
窓の方角により差異が生じるのかも知りたい。
→業界全体では10年を目処にガラスフィルムの張り替えを推奨している。
南面等の日射を受けやすい方角は劣化が早い可能性があるが、まず痛むことはない。

- CO₂削減量を示す証明書を発行可能とあったが、公的な証書として使用することが可能なのか。
→業界内及びサンゲツが独自基準を設けて証明書を発行しているが、現段階では公的な証書ではない。
 - 新築や既存住宅にガラスフィルムを施工する際に、活用できる補助金はあるのか。
→地方自治体（千代田区・港区など）では個人や店舗に対して助成制度が存在する。国の補助金制度はまだ少なく、現在ロビー活動中である。
ガラスとフィルムを合わせて外皮性能の計算に含めることができれば、今後益々補助金対象となる可能性があると考えている。
 - ガラスフィルムの流通、施行までの一般的な流れを教えてください。
 - 工場でガラスにフィルムを施工し、現場へ輸送することもあるのか。
→サンゲツから問屋を通して内装工事店等への商品流通が一般的であるが、ガラス屋がフィルム施工を行っているパターンも一部ある。工場でのフィルム施工も行っている。
 - EPD（製品環境宣言）との関連性について、教えていただきたい。
→後日回答することとなった。
→以下、11/14（木）サンゲツ様からの回答
結論としては、「関連あり」の認識である。
NT700は、SuMPO環境ラベルプログラム「エコリーフ」の認証取得商品を掲載している。
「SuMPO環境ラベルプログラム」はLCA（ライフサイクルアセスメント）手法を用いて、資源採掘、製品製造から廃棄・リサイクル処理までの製品のライフサイクル全体の環境負荷を、企業が自ら定量的に開示するEPD認証制度のひとつ。
建築分野のEPDについては、ISO21930に準拠している。
2024年4月、「エコリーフ」を「SuMPOEPD」へと名称変更した。
- 【参考サイト / サンゲツホームページ】
<https://www.sangetsu.co.jp/company/sustainability/environment/product.html>